

A 08 ロウイング・セーフティ(漕艇の安全)

ROWING SAFETY

A08

どんなスポーツにも何らかの危険はつきものだ。しかしその危険の程度と質はさまざまで、ロウイングにおける危険は、(容易に想像できることだが)水上スポーツとしての溺水の危険、水上交通としての危険などである。自然に対する謙虚さ、周囲に対する心配りや慎重さを失えば、事故が高い頻度で発生する。しかし、ロウイング・セーフティの基本をよく学び、実践し、また経験を積むことで、活動の安全を維持することができる。

ここで注意したいのは、「単純に危険に近寄らない、あるいは活動を消極的にすることは、個人やクルーの安全能力を高めていることにはならない」ということだ。ロウイング活動を通じ、「自分自身の」安全管理能力を高めることも、スポーツの目的の一つである。

もし社会的に、あるいはオアズマン自身の既成概念に、「ロウイングは危険」というものがつきまとうならば、むしろそれを逆に、「ロウイングは危険に對峙し、また生涯の安全能力を培える、安全で安心なスポーツ」を名実ともに築こうではないか。

競漕の勝ち負けは、明確だ。紙一重で勝者が生まれ、また敗者が生まれるが、勝利に向かっての努力はある意味、明確で目標設定もしやすく、結果も評価しやすい。勝利はそれほどたやすく得られるものではないが、それでも仮に、全てのクルーが努力しなくても、水準が下がっても、毎年一つのチャンピオン(優勝クルー)は誕生するし、逆に、全てのクルーが、劣らず素晴らしい水準の努力と成果を挙げていても、勝者となるのはそのうち一つだけである。

これに対し安全の水準、努力は対照的である。事故がなかったからといって安全とは限らないし、それが、安全対策がうまく機能した結果なのか、それともたまたま運が良かっただけなのか明確ではない。インシデントや小さな事故があったからといって、それがすべて敗北というわけでもないが、しかし、2つのことが言える。

大きな事故、特に死亡事故は、どんな場合でも、どんな賞賛すべき努力をしていたとしても明らかな敗北であるということ。(また、毎年、全てのクルーが敗者となるリスクさえ潜んでいるということ。)

もうひとつは、特に指導者の使命として、絶対に、全てのクラブ・クルーが、「敗北を喫すことは許されない」ということである。それは、時間無制限の勝負でもある。



RM2008での新規掲載: [RM3] ↓

安全確保の基本(予防措置)

- A08-001 ボートは危険か?
- A08-002 ロウイングの危険性と安全の程度
- A08-003 安全点検
- A08-004 事故の予防と発生時の対処
- A08-005 鉄則は絶対か? 「艇から離れるな」再検証
- A08-006 出艇判断
- A08-007 安全装備
- A08-008 遠漕の基本的な注意
- A08-009 気象の予測と判断

危険への対処, 危機回避

- A08-010 ラフウォーター、冬季、夜間乗艇
- A08-011 接触、衝突などのリスクと対策
- A08-012 ダム、滝、取水・排水口など
- A08-013 浸水の対策
- A08-014 沈からの回復1 - シングルスカルー
- A08-015 1×: 回復失敗の原因と対策
- A08-016 バックステイツキスカルーでの回復技術
- A08-017 沈からの回復2 - ダブル~エイト

事故発生時の周辺対応, 救助・蘇生法

- A08-101 水域の救助体制, 事故発生時の対処
- A08-102 事故発生時の行動システム
- A08-103 溺水者への救急処置-心配蘇生法

その他: 乗艇中のその他のリスク

- A08-104 乗艇中の体調悪化1 熱中症・他
- A08-105 乗艇中の体調悪化2 過換気症候群・他

- A08-999 ブランク

ROWING SAFETY